

公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

Winter 2017
No. **101**

特集

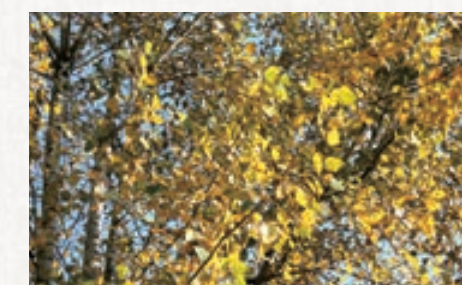
2017年度 かすみ祭
[ミス & ミスター福岡女子大]
インタビュー

高い志を持つ仲間と
切磋琢磨しつつ
学ぶ充実感



冬支度

11月某日、例年よりも早く吹き始めた冷たい海風が、冬の到来を伝えにきました。
何だか木々の葉も急かされるように色づき、我先にと散り始めたようす。
キャンパスを歩いていると小さい冬支度も見かけるようになりました。
今年はクリスマスイルミネーションも行われ※、いつもより賑やかな冬支度になるでしょう。
福岡女子大学広報誌101号をお読みいただきありがとうございます。
この広報誌が皆様のもとに届くころには、
新年を迎え、本格的な冬将軍が訪れていることと思います。
暖かい春、新しい芽吹きにむけて、どうか寒さに負けずお身体にお気をつけください。
(※「クリスマスイルミネーション」 12.4 ~ 12.25 まで開催)



FUKUOKA WOMEN'S
UNIVERSITY

公立大学法人
福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 Tel.092-661-2411(代表) Fax.092-661-2415
<http://www.fwu.ac.jp/>



Miss

ミス福岡女子大
食・健康学科2年
溝口 笑子さん
福岡県立明善高等学校出身

特集

「ミス＆ミスター福岡女子大」インタビュー！

「かすみ祭」の恒例イベントとなった「ミス＆ミスターコンテスト」。

今年は11月4日に大学会館で開催され、2017年度ミス＆ミスター福岡女子大が選ばれました。

お二人に、ミス＆ミスターを受賞した心境や大学生活について伺いました。



Mister

ミスター福岡女子大
食・健康学科2年
林田 美穂さん
福岡県立明善高等学校出身

CONTENTS

01 九州北部豪雨募金活動の義援金目録を福岡県に贈呈

02-05 特集 「ミス＆ミスター福岡女子大」インタビュー！

高い志を持つ仲間と
切磋琢磨しつつ
学ぶ充実感

06-14 FWU NEWS

06 events

・「第65回 福岡女子大学かすみ祭」を開催 ・WJC in かすみ祭 ・かすみ祭を終えて「咲き乱れた笑顔」

07-09 international

・WJC 2017秋学期開講式 ・WJC留学生インタビュー
・「ようこそ福岡へ：留学生歓迎旅行」 ・秋季“English Village”
・夏季海外語学文化研修および海外体験学習 ・大連大学創立30周年記念式典に出席

10-11 outreach

・公開講座報告 ・九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム
・高校生のためのイングリッシュキャンプ ・福津市連携事業 体験型実験教室「中学生への理系のススメ」

12-14 academic life

・EYHプログラム2017の実施と成果報告会の開催 ・学生インタビュー(海外インターン フィンランド／熊本／福岡)
・5日間の英語キャンプ“TOKIHA Summer Camp” ・福岡国際女性シンポジウム
・日本体力医学会学会賞受賞 ・韓国イクサン市研修(大気環境学研究室)

14 INFORMATION

・人事消息(H29.8.15～H29.11.15)



公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.101 Winter 2017

九州北部豪雨募金活動の義援金目録を 福岡県に贈呈しました

2017.9.6 (福岡県庁にて)

義援金の目録贈呈 ▶



川東さんから福岡県副知事へのご挨拶(副知事応接室にて)

福岡女子大学では、九州北部豪雨において甚大な被害を受けられた方々への支援のために、7月10日から8月18日まで、学生ボランティアと教職員が協力し、募金活動を行ってまいりました。皆さまの募金は、義援金として9月6日に福岡県庁の副知事応接室において、福岡県立大学、九州歯科大学と合同で、江口福岡県副知事へ手渡しました。本学からは、学生ボランティアの国際教養学科3年 川東 美月さんと井上 奈津美さんが参加しました。3大学を代表して、川東 美月さんから副知事へ「被災された皆様が一日でも早く元の生活に戻れるように、被災者の方々のために役立てていただけたら幸いです」との思いを伝えました。皆さまに多大なるご協力をいただき、心より厚くお礼申し上げます。



ミス&ミスターエントリー者が一堂に

溝口さんの特技はイラストを描くこと

林田さんは特技の一輪車を披露

ミス&ミスター 福岡女子大 interview



2017年度のミス&ミスター福岡女子大は、どちらも食・健康学科の2年生。高い志を持つ仲間と切磋琢磨する日々のなかで、学びへの充実感を覚えるとともに、将来のキャリアビジョンも見えてきました。3・4年生で経験する実習などを通して、さらなる成長が期待されます。



高い志を持つ仲間と



切磋琢磨しつつ学ぶ充実感

Miss

Mister

食・健康学科2年 溝口 笑子さん

食・健康学科2年 林田 美穂さん

食・健康学科で学ぶ中で将来の夢がより具体的に

——ところで、お二人が福岡女子大に進学を決めた理由をお聞かせいただけますか。

溝口 私は将来、食に関わる仕事に就きたいと考えていて、高校の先生から本学科のことを教えていただきました。寮で留学生と生活できることに興味があり、この大学で勉強したいと思うようになりました。

林田 私は、高校生の時から管理栄養士養成課程がある大学に進学したいと思い、本学を選びました。

——食・健康学科で学ばれていかがですか。

林田 高校まで共学でしたので、最初は女子だけの学生生活に不安があったのですが、個性あふれる友達に囲まれて、想像していた以上に楽しい大学生活を過ごしています。

溝口 私は、入学して管理栄養士になるというはっきりした目標ができました。将来必要な知識を学べていることに満足しています。管理栄養士になるという同じ目標を持つ仲間の存在が大きいですね。

応援してくれた人たちへの感謝の気持ちでいっぱい

——ミス&ミスターの受賞おめでとうございます。今の心境をお聞かせいただけますか。

溝口 大変嬉しく思っています。コンテストに出るきっかけを作ってくれた食・健康学科の友達に感謝しています。また運営委員の皆さんが、当日まで丁寧にご対応くださったおかげで楽しむことができました。

林田 私は出場する過程で、周囲の人たちの人柄の良さを改めて知ることができました。袴を着る貴重な経験もでき、応援してくれた人たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。

——お二人とも、食・健康学科のお友達からの推薦だったそうですね。食・健康学科は皆さん仲が良いのですか。

溝口 1学年36人の少人数なので、連帯感が強いですね。

林田 他の学科はコースに分かれませんが、食・健康学科はコースに分かれず、4年生までみんな一緒に学ぶので絆も深まると思います。

events

2017.11.3-11.4

「第65回福岡女子大学かすみ祭」を開催

「第65回福岡女子大学かすみ祭」を11月3、4日に開催しました。

- ・テーマ「万花繚乱～咲き誇れ笑顔の花～」
- ・学生運営スタッフ 約200人
- ・当日来場者 2,000人(2日間)
- ・主なプログラム 佐藤 二郎 Specialトークショー、
野外ステージ(ダンス・ビンゴ大会など)、
ミス・ミスターコンテスト、模擬店 など



ダンスサークル



野外パフォーマンス

WJC in かすみ祭

WJC留学生と
学生サポーターが
(JD-Mates WJC)
協働して、模擬店を
出店しました。



今年のメニューはガパオライス(タイ)とチョコボール(スウェーデン)でした。メニューは留学生と学生サポーターとの話し合いで決定され、当日までに何度も試作しました。

毎年大人気のWJC国際屋台です。来年はどんなメニューになるか、ぜひ楽しみにしてください。

もう1つのビッグイベント! 「ステージパフォーマンス」。来日して1ヶ月間、サポーターとともに「チェリー」(スピッツ)を猛練習し、日本語で披露しました。

当日お越しいただいた皆様、ありがとうございました。

かすみ祭を終えて
咲き乱れた笑顔

第65回福岡女子大学かすみ祭が、「万花繚乱～咲き誇れ笑顔の花～」のタイトルで、11月3日、4日に開催されました。かすみ祭に関わる全ての人々が笑顔になる、そんな学祭にしようと実行委員一同力を合わせて全力で取り組み、当日は、両日合わせて2,000人近い来場者の方にお越しいただき大盛況に終わりました。今年度は、幹部による来場者の方への出し物もあったのですが、そちらも好評で、私達実行委員も含め、タイトル通りの笑顔が咲き乱れる学祭になったのではないかと自負しております。そして私自身にとっても、忘れられない一生の思い出となりました。

このような学祭が実現できたのも、全力で頑張ってくれた実行委員はもちろんのこと、自治会や後援会の皆様方を含め、教職員や学生支援班の方々のご支援、また、ご来場頂いた地域の方々や学生のおかげだと心から感謝しております。

来年のかすみ祭でも、次期実行委員長が今年度になかすみ祭を作り上げたいと思いますので、楽しみにしていただくのと同時に、引き続き温かく応援していただけたらと思います。



かすみ祭実行委員長
2017年4月～2017年11月5日
(活動期間)

国際教養学科3年
高瀬 公望子さん



「食育バス」出発式

林田 朝食の欠食率が高い20～30代を対象に朝食の大切さを伝えるようと、「食育バス」を企画しました。自分に合った朝食が診断できるチャートポスターや診断結果別の朝食メニューのポスター、福岡県産の農産物を紹介するステッカーなどで西鉄バスをデコレーションし、1カ月程運行しました。真剣に朝食について考えてもらうというより、食育バスを運行することでターゲットに気付きを与えることが目的でしたが、企画に携わって食の大切さを伝える難しさを感じました。でも、管理栄養士になれば、積極的に食の大切さや楽しさを伝えていかなければならないので、良い勉強になったと思います。

ミス・ミスター
福岡女子大
interview

林田さんは、体験学習科目で「食育バス」の企画に参加されたそうですね。

食の大切さを伝える難しさを知った体験学習「食育バス」

英語漬けの日々に苦労した「アジア食文化プログラム」

溝口さんは、「アジア食文化プログラム」に参加されたそうですね。

溝口 1年生の夏休みに参加しました。韓国とタイの学生と一緒に、本学と韓国の梨花女子大学で2週間、アジアの食文化について学びました。プログラムに参加している間、コミュニケーションは全て英語でした。韓国とタイの学生とグループを組んで、プレゼンの準備をしたり、レポートを書いたりしなければならなかったのですが、英語力が不足していた私はとても苦労しました。でもこの期間は、韓国とタイの学生とルームシェアをしていて、講義以外の場所でも、否応なしに英語を使わなければならぬ環境でしたので、英語のスキルはかなり上達したと思います。今もタイの友達とは連絡を取り合っているんですよ。

多くの患者さんを支えられる管理栄養士に

これから、楽しみにしている授業などありますか。

林田 3年生で病院や保健所などに実習に行くので、実際の現場を体験するのが楽しみです。

溝口 私は、教育実習を楽しみにしています。4年生で栄養教諭として小学校で実習します。先輩の報告会に参加したのですが、授業の構成を考えたり楽しそうでした。

将来はどんな方向に進みたいと思っていますか。

溝口 病院の管理栄養士になりたいと考えています。患者さん一人ひとりに合った食事を考えるのは、責任も大きいと思いますが、やりがいもあると思うので。

林田 私も病院で働きたいと思っています。特に興味を持っているのが、

医師・看護師・栄養士・薬剤師などがチームで患者さんの栄養管理を行うNST (Nutrition Support Team) です。異なる職種の人と一緒に働けるのがいいたと思っています。

最後に、これから福岡女子大学を受験する皆さんにひと言をお願いします。

林田 福岡女子大学は学生と先生との距離が近く、大変アットホームな雰囲気のある大学です。特に食・健康学科は少人数なので絆も強く楽しいですよ。充実した大学生活を送る上で学ぶ環境も大切ですが、講義室や実習・実験室など、設備の整った環境で勉強できるのも本学の魅力の一つです。

溝口 福岡女子大学は、自分のやりたいことに取り組む環境が整っています。寮も楽しいですし、「かすみ祭」などの学生行事も充実しています。受験される皆さんにも本学で大学生活を楽しんでいただきたいです。



「アジア食文化プログラム」で
プログラム参加者と共に

international

2017.
9.30-10.1
10.14-15

ようこそ福岡へ：留学生歓迎旅行

9月30日から10月1日にかけて、The World of Japanese Contemporary Culture Program(WJCプログラム)に所属する短期交換留学生23名の歓迎と文化体験を目的として、鹿児島への研修旅行を実施しました。9月末に福岡での生活を始めたばかりの留学生たちは、サポーターである日本人学生(JD-Mates WJC)と共に、霧島アートの森で日本や世界の現代美術を鑑賞し、仙巖園では桜島を一望しつつ、雄大な日本庭園の美しさを堪能しました。日本文化を学ぶプログラムにふさわしい1泊2日の研修旅行となりました。

続いて、学部に所属する留学生(1年生)と交換留学生を対象として、10月14日から15日にかけて1泊2日の研修旅行を実施しました。初日は、九州で最も人気のある観光地のひとつである佐世保のハウステンボスを訪れ、美しい花々やヨーロッパ風の街並みを満喫しました。2日目は、長崎の原爆資料館、平和公園、グラバー園の3施設を訪問し、長崎の歴史や平和について学ぶことができました。あいにく2日間とも雨模様でしたが、留学生達にとって九州の歴史や文化に触れ、また、親睦を深める貴重な機会となったようです。

2017.11.11
-11.12

秋季“English Village”開催

11月11日から12日にかけて、1泊2日の英語合宿型プログラムEnglish Villageを宗像市のグローバルアリーナで実施しました。English Villageは、本学学生が海外大学への留学を模擬的に体験できるよう、年に2回(春・秋)実施しています。合宿中は、英語のみを使用して生活し、英語による講義を受講します。11回目となる今プログラムには、留学生27名および日本人学生40名の合計67名が参加し、授業やゲームなどのアクティビティを楽しみました。日本人学生と留学生が共に友情を育み、英語を学ぶ意欲を高める機会となり、留学疑似体験の目的を果たすプログラムとなりました。海外留学体験は、学生の創造性、自立性、協調性等の能力を高めるものであるという観点から、「次代の女性リーダーを育成」という本学の理念にふさわしいプログラムとして位置づけており、English Villageもその1つとしています。



international

2017.9.22

2017年度秋学期
The World of Japanese Contemporary
Culture Program(WJC プログラム)開講式

9月22日、WJC2017年度秋学期の開講式を挙行了しました。8年目となる今学期には10ヶ国11大学から23名の留学生が参加しています。開講式では留学生の自己紹介や留学中の抱負が述べられ、学生サポーター(JD-Mates WJC)および講師の紹介が行われました。

本プログラムは、海外の有力協定校から交換留学生を受け入

れ、主に英語での授業、自主研究、文化体験、地域交流や寮生活といった様々な機会を提供しています。本学の国際化推進を代表するプログラムであり、日本や福岡に対する深い理解を持った「親福岡・知福岡人材」を世界に輩出することが大きな目的の一つです。

WJC留学生インタビュー

●出身大学について教えてください。

チュラロンコーン大学はタイで最も古い歴史を持つ大学です。大学の場所は都会の中にありますが、自然もたくさんあるので心地良いです。大学では日本語学科に所属し、日本語を勉強しています。

●卒業後は何をしたいですか？

将来は日系企業の会社で働きたいです。特に通訳者になりたいです。

●福岡女子大学に留学した理由は？

タイには女子大学がないのと、福岡は住みやすい街だと思ったから、福岡女子大学に留学しました。

●福岡の生活はいかがですか？

福岡に住んで1ヶ月になりますが、福岡は静かな街で、人々も優しく、ここに来てよかったと思っています。日本に来る前は、日本人の友達が作れるかどうかちょっと心配していましたが、みんなとても優しく、何か問題があったら、いつも手伝ってくれます。

●最後に出身国のPRをお願いします。

タイは暑いですが、独特な祭りがたくさんある国です。海も綺麗で、観光スポットとして有名です。観光地ばかりでなく、ガバオライスやカレーライスなどタイ料理も外国で人気があります。タイにはたくさんの美味しい料理があるので、来る機会があったら、ぜひ食べてみてください！



リータラクーン・チュティモンさん
(LEETRAKUL Chutimon)
タイ チュラロンコーン大学出身

outreach

2017.9.2

2017年度公開講座 「充実した暮らしをサポートするまちづくり： 有機的な地域システムとは」

今回講師を担当いたしました国際教養学科の中村です。我が国では、少子高齢社会の急速な進展の中、自立かつ持続性を備えた地域づくりの構築が目前の課題と位置づけられています。前年度アイランドシティにおいて実施した、本学研究奨励交付金研究「女性の社会における活躍推進と持続可能な地域経済に関する研究」成果報告を中心に、経済学という視点から、暮らしやすい・住み続けたいまちづくりについて講演いたしました。当日は、地域の皆さま、公民館長、主事、行政や研究機関からは福岡市、宗像市、下関市立大学、本学社会人学び直しプログラム修了生の方々にもご出席いただき、地域、社会と大学のつながりの大切さを改めて実感いたしました。当日の様子は、福岡市や下関市立大学地域共創センターホームページなどで紹介いただいております。今後とも、3名の研究所所属大学院生とともに、多様性を備えたネットワーク形成をさらに深めながら行政、地域や社会との連携を高めてまいります。



2017.9.25

第9回九州・沖縄アイランド女性研究者支援 シンポジウム in 福岡「女性リーダー育成と 大学の役割」を開催しました。

九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムは、Q-wea参加機関（九州・沖縄の国公立大学11大学：2017.9時点）の持ち回りで、2009年から年1回開催されているものです。第9回となる今回は、本学が主催校となり「女性リーダー育成と大学の役割」をテーマに開催いたしました。

第1部の基調講演では、日本女性学習財団理事長村松泰子先生に「大学の男女共同参画と求められる女性リーダー」をテーマにご講演いただきました。組織の意思決定の場において女性がいる景色をつくる必要性を説かれた先生の言葉は、多くの参加者の印象に残りました。

続く第2部のパネルディスカッションでは、「女性リーダー育成のためのアクションプラン」をテーマに、放送大学福岡学習センター所長の菊川律子先生をコーディネーター、基調講演講師の村松先生と科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏をコメンテーターに迎え、Q-wea参加機関10大学の理事・副学長がパネリストとして参加しました。



international

2017.7.30
- 9.23

夏季海外語学文化研修・海外体験学習実施

8月～9月にかけて、本学学生約50名が海外語学文化研修（韓国・英国）および海外体験学習（米国・スリランカ・タイ）に参加しました。

海外語学文化研修では、2～4週間、研修国の言語と文化を学びます。9月28日には、参加者の必須課題である自主研究の報告会を行いました。報告者の中には、今回の調査テーマを卒業論文のテーマとして扱う学生がいるなど、実地での調査が今後の学業へと活かされることが期待されます。

海外体験学習「グローバル社会における私たちの食・環境（米国）」では、カリフォルニア大学デビス校に環境にフォーカスしたプログラムを実施しました。10月24日の報告会ではデビスにおける環境保全活動（エコビレッジ、自転車、食品リサイクル、有機農業等）や、国立公園制度等についての調査内容を、日本での取り組みと比較しながら、報告しました。次回（2018年度）は食と栄養士にフォーカスを当てたプログラムを実施予定です。



グローバルフィールド学研修に参加して



国際教養学科3年
島居 果菜さん

「グローバルフィールド学研修（スリランカ）」では、大学や国際協力機関、日曜学校等を訪問しました。ペラデニヤ大学、コロombo大学で受けた講義『スリランカの女性の役割』では、ジェンダー問題に関する日本との共通点や相違点を学び、同世代の学生とも交流を深めることのできた貴重な体験となりました。この研修を通し、スリランカの人々の温かさや美しさに触れ大好きな国になりました。今後も親交を深めていきたいです。

2017.10.11

大連大学創立30周年記念式典に 梶山千里学長が出席しました。



本学の梶山千里理事長兼学長は、10月11日に開催された大連大学の創立30周年記念式典に、招待を受けて出席しました。大連大学は本学の海外交流協定校であり、優れた日本語教育で中国を代表する大学です。毎年交換留学生として大連大学の学生を本学に受け入れています。盛大な記念式典の後、学長フォーラムが開催され、本学、大連大学、法政大学（日本）、聖約翰科技大学（台湾）、スターリング大学（英国）、およびコモロ大学（コモロ連合）の学長・副学長が、グローバル社会における大学の研究教育戦略について講演しました。梶山理事長兼学長は、高等教育の国際化をテーマに、本学の国際教育プログラム、国際共同研究、感性教育などの意欲的取り組みを紹介しました。

academic life

EYHプログラム2017の実施と成果報告会の開催

EYHプログラムとは

Expanding Your Horizons(EYH)プログラムは、1ヶ月以上にわたって大学を飛び出し、国内外の企業や地域社会でインターンとして活動しながら様々な体験をすることで、学生自身が社会で起きていること、社会の仕組みを実践から学ぶとともに、自分の持つスキルや知識を知り、将来の学びやキャリアパスについて考えられるようになるために作られた新しいプログラムです。今年は5名の学生が、夏休み期間を利用して、フィンランド、熊本県小国町、福岡市でインターンとして活動してきました。

| EYHプログラム2017 参加者 |

フィンランド

国際教養学科3年 松岡 萌絵美さん
国際教養学科2年 谷村 聖奈さん

熊本県小国町

国際教養学科3年 有田 夏記さん
国際教養学科2年 池田 絵里さん

福岡県福岡市

国際教養学科3年 木下 富喜さん

EYHプログラム2017成果報告会を開催



国際教養学科3年
松岡 萌絵美さん

10月10日に、学内外から約100名の方にお越しいただき、参加した5名の学生による成果報告会を行いました。

成果報告会は座談会形式で、派遣先企業・団体について、派遣先での業務内容、現地での活動スケジュール、インターンシップ中の苦労話、そこから得た学びや気づき、そして今後に生かしたいことについて、5人がそれぞれの経験を話しました。



フィンランド

成長の場としての
海外インターン

■ Orava Consulting 2017.8.1-9.22

国際教養学科2年
谷村 聖奈さん

フィンランド南部にある島・ケミオを訪れ、コテージレンタル会社にて8週間に渡るインターン生活をさせていただきました。主な業務は、インターネットマーケティングで、フィンランドにあるコテージへの、アジア人旅行者の誘致を目的とするものでした。英語能力不足に悩んだり、調査に行き詰まったりと、辛い時もありましたが、日々自分を見つめ直し、それらを乗り越えました。将来に繋がる貴重な経験であったと実感しています。

熊本県小国町

杖立温泉での地方創生
インターンシップ

■ チーム背戸屋 2017.8.16-9.22

国際教養学科3年 有田 夏記さん
国際教養学科2年 池田 絵里さん

私たちは、杖立温泉で旅館や商店を営む方々によって結成された有志活動団体「チーム背戸屋」にて約6週間研修をさせて頂きました。今回は、指し会話帳と「今どこマップ」という地図を、インバウンド対応ツールとして制作しました。活動中には、自分達の力量不足を痛感し、大変な時もありましたがこの研修を終えた時に感じたやりがいはいまでも忘れません。

地方創生に興味がある方、温泉が好きな方、是非とも挑戦してみてください。

福岡県福岡市

長期の
インターンシップを通じて

■ 株式会社コンテンツ 2017.8.1-9.15

国際教養学科3年
木下 富喜さん

WEBサイトや求人広告の制作企業にて物事を提供する側に立つことができ、普段当たり前前に受け取っているサービスや商品の完成品を「当たり前」に提供することの素晴らしさを実感しました。また新サイト企画提案の機会を頂き、多くの分析を経て企画を立案し、社員の方のフィードバックを頂き、指摘を活かして修正する事を繰り返しながら日々改良を重ねる経験ができたことは長期インターンシップの醍醐味だったように思います。

outreach

2017.10.7
-10.9高校生のための
イングリッシュ・キャンプを開催しました。

10月7日～9日の3日間、九州内の女子高校生1、2年生39名が参加する、高校生のためのイングリッシュ・キャンプを開催しました。

講義は本学学術英語プログラム講師によって行われ、英語によるディスカッションやリサーチなど、大学の講義を体験しました。また、期間中は国際学友寮 なでしこの大広間に宿泊し、留学生や学部生と一緒に料理を作ったり、ゲームをしたりして交流しました。

はじめは硬い表情だった高校生も、徐々に英語で話すことに慣れていき、最終日に行われたポスタープレゼンテーションでは、10チームに分かれてリサーチした国の基本情報や文化等を英語で発表し、十分に成果を発揮していました。



2017.11.3

福岡女子大学 福津市連携事業 体験型実験教室
「中学生への理系のススメ」を実施しました。

11月3日に福岡女子大学 福津市連携事業 体験型実験教室「中学生への理系のススメ」に、福津市と福岡市東区の中学生が参加しました。当日は実際の研究に使用するクロマトグラフィーや顕微鏡を用いた実験を通して「理系の面白さに触れる」「楽しみながら学ぶ」ことを体感しながら、集中して実験に取り組みました。

これからも福津市との連携事業を通して、福津市民の皆様また地域の皆様との交流を深めていきたいと思っています。

academic life

日本体力医学会学会賞を受賞しました

■ 第72回日本体力医学会大会 2017.9.16-18

2016年度、日本体力医学会の学術誌「体力科学」に掲載された論文「地域在住高齢者における縦断的調査への不参加および途中脱落に関連する心身機能と背景因子の探索」が学会賞を受賞し、学会大会で表彰されました。この研究は、福岡県太宰府市の受託研究として2009年から2014年の長期にわたり実施されたものです。本研究によって、真に要介護リスクの高い高齢者は自ら健康関連イベントに参加しない、もしくは途中で参加しなくなる傾向が強いことが明らかになり、参加者募集型の介護予防事業の問題点を客観的データで示した点が高く評価されました。今後の介護予防事業のあり方を考える上で貴重な資料となることが期待されます。



国際文理学部
長野 真弓教授

大気環境学研究室4年生による
韓国イクサン市の廃棄物処理施設訪問

■ 韓国イクサン市研修 2017.8.17-21

私たちは大気汚染物質の一つであるPM2.5に対して、長距離輸送(越境)の側面からその化学的性状特性や発生源について卒業研究を行っています。夏休み中(8月17日~21日)には卒業研究の一環として、韓国イクサン市の廃棄物処理施設「イクサン市再生資源センター」を訪問しました。そこで、焼却灰の採取や施設の見学、ごみ処理場の職員・市民の方々と意見交換を行いました。韓国では日本と異なり、市民が積極的にごみ処理場の運営に関わっていることが分かりました。さらに、イクサン市の世界遺産である王宮里遺跡や弥勒寺を見学し韓国の歴史についても学ぶことができました。今後は、採取した灰やイクサン市で捕集を行っていたPM2.5を分析し、越境大気汚染やその原因物質について理解を深め、卒業研究に繋げていきます。



大気環境学研究室4年
川島 涼香さん
古賀 栞さん
豊原 ゆりかさん

I N F O R M A T I O N

人事
消息

退職

国際教養学科 准教授	國府 久郎	平成29年8月31日付
学 務 部	財部 奈乃	平成29年9月30日付
経 営 管 理 部	柳原 朋美	平成29年9月30日付

新任

学 務 部	山田 みか	■ 教務企画班	平成29年9月25日付
経営管理部	福田 いずみ	■ 総務・財務班	平成29年10月1日付
経営管理部	中島 達朗	■ 経営企画班	平成29年10月1日付

academic life

自分を解き放つ5日間の英語キャンプ
“TOKIHA Summer Camp”に参加して

■ TOKIHA Summer Camp in Fukuoka 実行委員会 2017.8.16-20

高校生に自分の殻を破って次への一步を踏み出す勇気を与えたい、日米の大学生のそんな思いから、自らを解き放つキャンプ、TOKIHA Summer Campは始まりました。このキャンプはただの英語キャンプではなく、高校生が、自分自身の問題、さらには日本や世界を取り巻く環境・問題について、日米の大学生や個性豊かな同年代の学生とともに考え、課題に取り組み、刺激を受けながら、自分の可能性や視野を拓いてもらうことを目的としています。今年で2回目を迎えるこのキャンプは、アメリカの名門大学UC Berkeleyの学生と海外留学を経験した日本各地の大学生28名が参加しました。

私がこのキャンプに参加したのは、自分がもし高校生の時に何か刺激を受けていたら、私の人生はもっと大きく変わっていたのではないかと、私の経験を高校生のために活かさないだろうか、という思いからです。実際には、高校生に何かを与えるだけでなく、高校生の成長を通して、自分自身も成長できるキャンプでした。これからも、自分の経験を活かし、社会に貢献できる活動を積極的に行っていきたいと思っています。



国際教養学科4年
永田 真琳さん



福岡国際女性シンポジウムに参加して

■ 福岡国際女性シンポジウム 2017.9.9

福岡国際女性シンポジウムは、ウェンディ・ホルデンソン氏による基調講演、女性の政治参画・意思決定の場への参画促進、超高齢社会における女性の活躍促進の3部構成で行われました。私は第2部に登壇させていただいたのですが、テーマが政治・意思決定の場ということもあり、一緒に登壇された方々は実際に社会で活動されている方々だったため、自分がきちんと務めることが出来るのかという不安がありました。しかし、学生という立場を踏まえ、留学を通して見えた世界、そして日本の学生・若者がこのテーマについてどのように感じ、考えているのかを中心に述べることができました。また、政治やビジネスで実際に活躍されている参加者の方々のお話を聞くことができ、福岡にいてもジェンダー問題について国際的な視点から考えることができる貴重な機会でした。このようなテーマは私たちにとってまだ先の話のように感じますが、学生であっても意識から変えていくことが重要であると感じました。



国際教養学科3年
岡坂 明日花さん

